

# EVENTS 関連プログラム

## 開幕記念スペシャルギャラリートーク

本展出品作品の所蔵者、中右瑛さん(竹久夢二文学館神戸文庫 主宰)に、コレクターならではの視点から、作品にまつわるエピソードをお話いただきます。

4月9日(土) 11:00~12:00 [会場] 展示室D  
参加無料(企画展観覧券またはミュージアムパスポートが必要)  
当日先着30名(10:30より受付)

## グラントワ・レトロ横丁

5月1日(日) 10:00~14:00 [会場] 中庭広場 ほか  
竹久夢二が活躍した時代にちなみ、「大正・昭和レトロ」をテーマに、懐かしの洋食や駄菓子、昔の遊び体験コーナーなどが並びます。  
子どもから大人まで、世代を超えてお楽しみください!  
※食の提供はテイクアウトのみ

## ギャラリートーク (学芸員による作品解説)

4月24日(日)、5月4日(水・祝)、5月8日(日)、5月15日(日)  
14:00~15:00 [会場] 展示室D  
参加無料(企画展観覧券またはミュージアムパスポートが必要)  
当日先着30名(13:30より受付)

## 子どもWEEK!

4月29日(金・祝)~5月11日(水)は、「子どもWEEK!」につき、  
小中学生は観覧無料です。  
※年齢が確認できるものをご提示ください

竹久夢二 (勇敢な恋人「婦人グラフィ」巻4号) (部分) 大正13年(1924)

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関連プログラムは定員を減らす場合があります。●美術館の入館の際はマスクの着用、入室前の検温、緊急連絡先の記入などをお願いしています。●施設の開館状況、展覧会の会期、関連プログラムなどが変更・中止になる可能性があります。ご来館の前には、グラントワホームページにて最新の情報をご確認ください。 [特設サイトはこちら▶](#)



## MUSEUM X THEATER Vol.17

### コンサート「夢二の見た夢、その淡い」

夢二が表紙を手がけた「セノオ楽譜」「中山晋平作曲全集」の音楽を、生演奏でお届けします。さらに、本展にあわせて夢二の詩に書き下された歌曲集「ゆめぢのうた」(作曲:平野一郎、吉川真澄 & 鳥根県芸術文化センター「グラントワ」委嘱曲)も披露します! 音楽でも夢二の世界に浸ってみませんか。

5月28日(土) 14:00~16:00 (13:30開場) [会場] 多目的ギャラリー  
[出演] 吉川真澄(ソプラノ)、水戸見弥子(ピアノ)  
[入場料] (前売・全席自由・定員40名) 一般1,500円/会員1,000円  
○会員=ホール友の会会員、ミュージアムパスポート会員、グラントワ共通会員 ○当日券は各500円アップ  
○チケット発売開始=3月26日(土) [窓口は9:00~、電話予約は12:00~ ※発売日のみ]

[プレイガイド] 鳥根県芸術文化センター「グラントワ」総合案内カウンター  
ローソンチケット(Lコード:63038)

※未就学児の入場はご遠慮ください ※車椅子での鑑賞をご希望の方は、グラントワまでお問い合わせください  
※無料託児サービスあり。5月21日までに要申込(TEL 0856-31-1860)



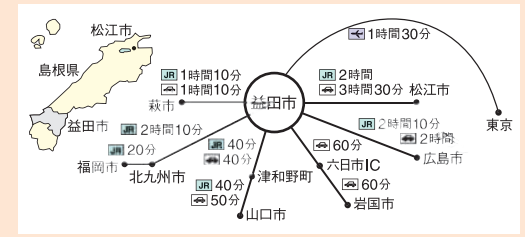
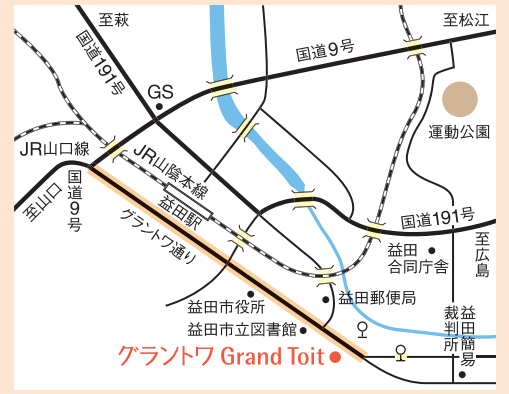
**吉川真澄**  
岸和田生まれ。相愛大学音楽学部声楽専攻卒業。桐朋学園大学研究科声楽専攻修了。文化庁国内芸術インターンシップ研修生。間宮芳生作曲オペラ「ホボイ」の世界初演(田中浪演出)、平野一郎作曲モノオペラ「邪宗門」をはじめ多くの作品の初演を務める。幅広いレパートリーによる独自のプログラムには定評があり「音楽の友」誌上で「絶対に聴くべきアーティスト2017」に選ばれる。2020年3月、出雲の春音楽祭にて平野一郎作曲「交響神楽(潮)」のソプラノソロで出演。松方音楽大賞受賞、佐治敬三賞受賞、東京混声合唱団レジデントメンバー。



**水戸見弥子**  
桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。同アンサンブル・ディプロマ修了。東京・春・音楽祭での「ハルジファル」「タンホイザー」、都響「第九」「イワン雷帝」等の音楽スタッフを務め、文化庁「本物の舞台体験事業」では、ピアニストとして参加。1999年、ヨーロッパで活躍するN.J.ジヴコヴィッチ作曲「Die Arten des Wassers」(水の種類)の日本初演後は、邦人作品の初演も多く、現在は、声楽、合唱、室内楽をはじめとするコンサートやレコーディングを中心に、海外公演にも同行するなど、国内外で活発に演奏活動を行っている。

### 平野一郎

作曲家。丹後國宮津出身。京都市立芸術大学 & 同大学院修了。在学中より各地の祭礼を巡る踏査を始動。2001年より作曲活動を本格化。京都を拠点に日本の風土や伝承に根差した創造を展開。11年演奏家・美術家と「音色工房」結成、モノオペラ「邪宗門」初演。「鱗宮交響曲」(声屋交響楽団)「八幡大縁起」(やわた市民音楽祭)「星夜ノ夜」(館野泉)「四季の四部作」(吉川真澄)「胡絃乱聲」(国立劇場)「とよのはる」(森の会)等委嘱作多数。17年より「出雲の春音楽祭」にて「連作交響神楽」(全九部作) 進行中。19年NHK8K番組「落慶」音楽制作。21年多和田葉子書き下し台本による5幕のオペラ『あの町は今日もお祭り』(くにたち芸術小ホール) 作曲。日本交響楽振興財団作曲賞最上位・日本財団特別奨励賞、ISCM世界音楽の日々 2008入選、京都市芸術新人賞、青山音楽賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞奨励賞等受賞。出雲芸術アカデミー・コンポーザー・インレジデンス。



## 島根県立石見美術館

〒698-0022 島根県益田市有明町5-15「グラントワ」内  
TEL 0856-31-1860(代表) FAX 0856-31-1884(代表)  
E-mail: zaidan@grandtoit.jp https://www.grandtoit.jp

交通案内  
石見交通バス「グラントワ前」下車 徒歩1分  
JR 益田駅から徒歩15分  
萩・石見空港からJR 益田駅まで連絡バス約15分  
浜田自動車道浜田ICから自動車約50分  
JR 新山口駅から益田駅まで特急約90分  
◎駐車場あります(約240台・無料)  
※ただし土日祝などイベント開催時は駐車場の混雑が予想されます。

次回企画展  
**平川紀道・野村康生**  
既知の宇宙 | 未知なる日常  
7月2日(土)~8月29日(月)

# TAKEHISA Yumeji and Maidens Beauty, Graphics, and Modern Life



竹久夢二 (星まつり) (部分) 大正時代末期

# 竹久夢二と 乙女たち

企画展



竹久夢二 (中山晋平作曲全集「椿」表紙) (部分) 昭和5年(1930)

あこがれの美人、  
とよめきこの  
モダンライフ



竹久夢二 (中山晋平作曲全集「東京行進曲」表紙) (部分) 昭和5年(1930)

## 2022 4.9 SAT ▶ 5.30 MON

【開館時間】 9:30~18:00 (展示室への入場は17:30まで)

【休館日】 毎週火曜日 (ただし5月3日は開館)

【観覧料】 当日券 / 一般: 1,000 (800) 円、企画・コレクション展セット 1,150 (920) 円  
大学生: 600 (450) 円、企画・コレクション展セット 700 (530) 円  
小中高生: 300 (250) 円、企画・コレクション展セット 300 (250) 円  
前売券 / 企画・コレクション展セット 900 円

※ ( ) 内は20名以上の団体料金 ※ 小中高生の学校利用は入場無料  
※ 各種障がい者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方およびその介助者は1名まで入場無料  
※ 前売券は、ローソン各店(Lコード63093)、グラントワ総合案内カウンターでお求めいただけます。

【主催】 島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、BSS山陰放送、中国新聞社 【後援】 芸術文化とふれあう協議会  
【特別協力】 竹久夢二文学館神戸文庫有限公司 【企画協力】 株式会社アートワン

## 島根県立石見美術館

島根県芸術文化センター「グラントワ」内



竹久夢二（新富座当り狂言 雁治郎の忠兵衛・福助の梅川）  
大正3年(1914)

日本髪と着物のとり合わせ、たおやかな女性たちの仕草に、うっとり。  
歌舞伎や浮世絵に代表される江戸の情緒、美男美女の艶姿は、  
大正・昭和の時代も、そして現代も、私たちを魅了し続けています。



竹久夢二〈一座の花形〉 大正3年(1914)



中原淳一〈娘十二月 十月 浮世絵やの娘〉  
昭和14年(1939)頃 ©JUNICHI NAKAHARA/HIMAWARIYA

## 江戸情緒、 粋な美人

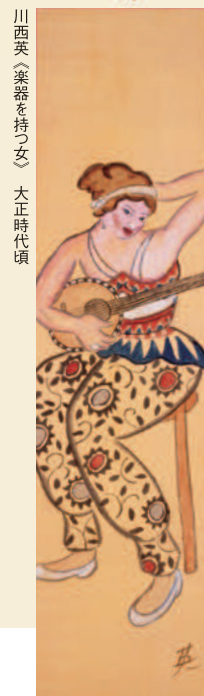
## のぞいてみたい…… 異国の香りとエロティシズム

乙女の心をくすぐる「危険な香り」は、大正時代の美術・文学の特徴です。  
南蛮趣味や耽美趣味など、「乙女の日常」からちょっぴり足を踏み外した、  
ファンタジーの世界をのぞいてみましょう。

小村雷岱《お伝地獄 入墨》 昭和10年(1935)



竹久夢二（麻利耶観音「婦人グラフ」1巻7号）  
大正13年（1924）



川西英（楽器を持つ女） 大正時代頃

どこか切ない……  
かわいくて、おしゃれで粋で、  
夢二が描いた乙女たち、  
夢二にあこがれた乙女たち

大正時代から昭和時代のはじめにかけ、物憂げな女性像で一世を風靡した竹久夢二は、美人画家として活躍しただけでなく、グラフィックデザインの領域でも時代を先取りする作品を多数発表していました。夢二の魅力は、懐古趣味とモダンな感覚、退廃性と可憐さが同居しているところにあります。当時の女性たちは夢二が描いた美人に憧れ、そのイメージを装いに取り入れたり、夢二がデザインしたグッズを買い求めたりもしました。

ファッションや身の回りの小物、文芸、そして音楽まで、生活の様々な場面をいろどった夢二の仕事は、露谷虹児や中原淳一といった後続の作家たちにも受け継がれ、女性たちの暮らしに華やぎを添えました。

本展ではまず、竹久夢二の美人画のほか、書籍や雑誌、楽譜のグラフィックデザインなど、幅広い仕事を紹介します。そして夢二の作品から4つの要素を抜き出し、同時代の作品や後を追って活躍した画家たちの作品を交えながら、大正・昭和の乙女たちを魅了したイメージのひみつを探ります。

夢二のどんなところが魅力？  
乙女たちをひきつけた、  
4つのときめきセンス

## 美術と音楽のコラボレーション！ 夢二の楽譜デザイン「セノオ楽譜」「中山晋平作曲集」大特集



竹久夢二  
《中山晋平作曲全集「椿」表紙》  
昭和5年(1930)



竹久夢二《セノオ楽譜「白鳥」》  
大正15年(1926)



竹久夢二  
《セノオ楽譜「白き手に」》  
大正10年(1921)



竹久夢二  
《セノオ楽譜「夢に見る君」》  
大正13年(1924)

竹久夢二が表紙デザインを手がけたことで知られる「セノオ楽譜」より57点と、「中山晋平作曲全集」全27点を特集展示します。「宵待草」をはじめとする詩作も行った夢二の叙情性と、卓越したデザインセンスが溢れる傑作ぞろい。モダンな美少女、前衛的なタイポグラフィ、ミステリアスな女性像など、様々な作風が楽しめます。発売当時、楽譜は読めなくても「ジャケ買い」してしまった人も多かったことでしょう。



竹久夢二《勇敢な恋人「婦人グラフ」1巻4号》  
大正13年(1924)



竹久夢二《赤い手袋の女》 大正時代初期



小早川清《近代時世粧ノ内一ほろ酔ひ》  
昭和5年(1930)

## モダンガール、 モダンライフ

大正のおわりから昭和のはじめ頃、近代的な都会生活を楽しむ乙女たちは「モダンガール」(略してモガ)とよばれていました。

モガたちのファッションブルな装いや、おしゃれなライフスタイルを紹介します。

## クールでキュート、 大正・昭和のときめくデザイン

出版文化の隆盛により、多種多様な雑誌が読者獲得のため、魅力的なデザインを競いました。また、絵はがきや千代紙、絵封筒などにも夢二たち人気作家が起用され、様々な「かわいい」グッズが乙女たちの生活をいろどりました。今でもほしくなる、ときめきデザインの数々をご覧ください！



竹久夢二《桜草(千代紙)》 大正時代



竹久夢二《椿(千代紙)》 大正時代



竹久夢二《マッチ棒(千代紙)》  
大正時代後期



竹久夢二《若草「昭和4年5月号表紙」》  
昭和4年(1929)

竹久夢二《蔓草(千代紙)》(部分) 大正時代